

日本赤十字社医療センター

東京都渋谷区



保健、医療、看護、福祉の各種サービスを提供する中核病院として

拡める



日本赤十字社医療センター

日本赤十字社医療センターは、明治19年(1886年)博愛社病院として麹町区飯田町に開設されたわが国最初の日本赤十字社病院である。明治24年(1891年)に現在地に移転して日本赤十字社中央病院と改称された後、昭和47年(1972年)日本赤十字社本部産院と統合して現名称に改称し、今日に至っている。

現在の渋谷区広尾地区に移転開設以来

110余年にわたり先進的な医療の提供に貢献してきたが、昭和50年(1975年)に建設された建物の老朽化のため新築がすすめられた。

平成22年(2010年)1月、保健、医療、看護、福祉の各種サービスを総合的に提供する「日本赤十字社広尾地区再建整備事業」の中核として日本赤十字社医療センターは生まれ変わった。延床面積約82,000㎡、病床数708床の規模を誇り、最先端医療を提供

する病院の1つとして注目されている。

病院特有の空調特性から、その熱源についてはさまざまな比較検討がなされた。入念な検討の結果、500USRtのターボ冷凍機2基と4,430㎡の大型水蓄熱槽による蓄熱式空調システムが導入された。年間を通じた冷房負荷に対して、高効率な蓄熱式空調システムがベース運転で対応することになる。夏季の本格的な冷房運転に向け、割安な夜間電力を活用することによる一層の省コストの推進および高効率運転による省エネルギー化・省CO₂化が期待される。

日本赤十字社医療センター

- ・所在地：東京都渋谷区広尾4-1-22
- ・建築設計：(株)久米設計
- ・建築施工：(株)大林組
- ・蓄熱設備設計：(株)久米設計
- ・蓄熱設備施工：三菱冷熱工業(株)
- ・延床面積：82,000㎡ ・竣工：2009年

■蓄熱設備概要

水蓄熱式空調システム 熱源機：ターボ冷凍機1,758kW×2基(三菱重工業)、蓄熱槽：4,430㎡